

教育課程編成委員会 議事録

日 時 2026年3月10日(火)14:00-15:00

場 所 旭美容専門学校 本館会議室

出席委員	株式会社ふらいむ シニアマネージャー	伊藤元 委員
	有限会社ラボ・ビューティ取締役	佐々木昌美 委員
	Hair shop OZ オーナー	小林裕也 委員
	Nail&cosmeticTOBIOKA オーナーネイリスト	前田佳苗 委員
	旭美容専門学校 校長	溝口智紀
	旭美容専門学校 教務部長・美容科学科長	丹羽孝喜(司会)
	旭美容専門学校 トータルエステティック科科长	豊田そのみ
オブザーバー	株式会社コマツ商会代表取締役社長	服部和幸 様
	旭美容専門学校 理事長	長谷川雅敏
書記	旭美容専門学校 事務	駒倉美佳

議事次第

司会者丹羽委員より出席委員の確認、配布資料確認、会議の進め方について説明、その後校長挨拶ののち議事に入る。

議事

一、美容科、ネイル・エステ科の教育課程について

前回の教育課程以降の取り組み

美容科ではカリキュラムを見直し、1年次に基礎科目を幅広く学び、2年次にコース別で専門性を高める体制へ変更した。トータルヘアモードコースではサロンと連携した実践的な授業(シティ&ギルズ)を導入し、即戦力の育成を図っている。また、海外研修として韓国研修を予定している。(丹羽)

ネイル・エステ科では、名称変更を予定しているが教育内容に大きな変更はなく、専攻ごとに専門分野を学びながら、アイブロウ等のトレンドを取り入れた授業を実施していく。(豊田)

二、本年度学生アンケート結果の報告について

学年末に実施した学生アンケートについて、学生の率直な意見が反映されており、授業への取り組みについても自己評価が適切に行われていると考えられる。結果については今後の教育改善に活用していく。

(丹羽)

委員からの意見

アンケートは設問の内容によって回答傾向が変わるため、目的に応じた設計が重要である。(服部様)

学校が何を把握したいのかによって質問内容を変える必要があり、改善を目的とする場合は厳しい意見も含めて現状把握ができる内容でよい。(伊藤様)

アンケート結果から学生の意欲も感じられ、世代間ギャップはあるものの前向きな姿勢も見受けられる。

(佐々木様)

アンケートは学校の改善点を把握する上で有効である。学生をインターンシップで受け入れる際も事前訪問により、学生本人の聞き取りができることでインターンシップの際の取り組み内容の参考になる。

(小林様)

SNS 発信は必要であるが、カリキュラムとしては専門性を深める内容も重要である。

(前田様)

学生が意見を言えない状態が最も問題であり、アンケートは重要な参考資料である。実践的教育の必要性についても引き続き検討が必要である。

(服部様)

三、本年度本校の取り組みと今後の課題について

校長 溝口より、建学の精神である「HUMAN BEAUTY(より美しく生きる)」について説明があり、教育における基本的な考え方および教員の行動指針について共有がなされた。

どの業界においても変化に対応し続けることが求められており、学校としても業界と学生をつなぐ役割を果たしながら、どのような学びや教育環境を取り入れていくべきかを常に考えていく必要があるとの説明があった。

また、建学の精神である「HUMAN BEAUTY(より美しく生きる)」について説明があり、教員の行動指針として以下の教育ミッションを掲げていることが紹介された。

- ・昨日の自分よりも、より美しい生き方を追求し続ける
- ・個々の可能性を最大限に活かすためのサポートを行う
- ・社会から必要とされる自立した人材を育成する
- ・関わるすべての人の人生を応援する

これらの理念のもと、人としての成長を促す教育を大切にしていきたいとの説明があった。

今後の課題

今後の学校運営に関する課題として、以下の2点が挙げられた。

- ・現在の若い世代に対してどのように対応していくか
- ・旭の歴史の中で培われてきた価値観をどのように今後活かしていくか

また、来年度のクラス運営について、これまで担任と学年主任による体制で情報共有を行いながらチームで学生対応を行ってきたが、今後はさらにバランスの取れた体制を目指していくとの報告があった。

卒業までに高い社会性と適応力を身につけた美容師・エステティシャンを輩出することを目標とし、その具体的な取り組みとして「気持ちの良い挨拶」の徹底が挙げられた。場面や状況に応じた挨拶や行動ができる学生を育成し、自ら考えて行動できる力を身につけさせることを目指す。また、そのためには教員が率先して必要な行動やフォローを行い、互いに支え合う姿勢を示していくことが重要であるとの説明があった。

業界の就職先から「旭の学生は技術力だけでなく、人間性や社会性も優れている」と評価される学校を目指していきたい。本取り組みは短期間で完成するものではなく、3年後を見据えて推進していく方針であり、美容業界への貢献にもつながるものであるとの説明があった。

最後に、授業内容の充実とともに人としての成長を促す教育を重視していきたいとして、委員からの意見を求めた。

委員からの意見

- ・ サロンにおいてもスタッフとの距離感の取り方は難しく、その場に応じた適切な距離感が重要であるため、学校でそのような教育を行うことは有意義である。 (小林様)
- ・ 外部の方と接する際に挨拶ができないケースも見られるため、挨拶の基本から指導していただけるとありがたい。 (佐々木様)
- ・ コロナ禍で育った学生は社会性を育てる時期に制限を受けた世代であり、距離感の取り方に課題を抱えていると感じている。 (溝口校長)
- ・ 誤った対応があった場合には、その場で正しい行動を伝えることが重要であり、日々の積み重ねが人材育成につながる。 (前田様)
- ・ 他業界においてもコミュニケーション能力の重要性が指摘されており、本校でも来年度の事業計画においてその育成を掲げている。アイスブレイク等を通して関係構築力を高める取り組みを進めていく。 (長谷川理事長)

五、その他

1) 次回会議の開催日について

次回会議は、2026年9月3日(木)10:00～11:30に開催する。

場所:旭美容専門学校 本館 実習室

2) 閉会挨拶

本日頂いたご意見を教育課程の編成に反映していきたい。 (丹羽委員)

お忙しい中ご出席いただき、貴重なご意見に感謝申し上げます。今後も現場に求められる人材を育成できるよう教育の充実に努めていく。 (溝口校長)